

授業科目の区分	専門分野《老年看護学》			
授業科目	老年看護概論			
開講年次・学期	1年次・後期			
単位（時間）	1（30）			
担当講師	《実習調整者》看護師としての実務経験あり			
科目のねらい	老年期にある人を理解し、高齢者の健康と多様な生活を支える看護について理解する。また、高齢社会が抱える諸問題を通して、自己の高齢者像を明確にする。			
到達目標	1) 加齢に伴う身体的変化・心理的变化について説明する。 2) 高齢者もてる力を活かすためのかわりについて説明する。 3) 高齢者の生活とそれを取り巻く社会的状態について説明する。 4) 高齢者とその家族が必要とする社会資源やかわりについて説明する。			
授業計画	回	内容と方法	事前学習	事後学習
	1 (2h)	講義「授業ガイダンス」「高齢者とは」	自身の高齢者に対するイメージについて明確にする。	高齢者に関する新聞記事の要約と所感をまとめる。 レポート提出有
	2 (2h)	講義「高齢者の語りをきく意味」 ※VTR 視聴	著名な高齢者とその高齢者が述べている言葉について調べる。	身近な高齢者にライフヒストリーをきき、まとめる。 レポート提出有
	3 (2h)	講義「加齢に伴う身体的変化①」	加齢に伴う身体的変化について学習する。	学習した内容を復習し、他者にも伝わるようまとめる。
	4 (2h)	講義「加齢に伴う身体的変化②」	3 回目の事後課題と同様。	加齢に伴う身体的変化について復習する。
	5 (2h)	小テスト有 ※前回の講義内容 講義「加齢に伴う心理的变化」	提示した課題を確認し、高齢者の心理的变化について考える。	学習した内容を復習し、考えをまとめる。
	6.7 (4h)	演習「高齢者体験」	これまでの学習を基に、高齢者になりきれるよう準備する。	高齢者体験をしておきの学びをまとめる。 レポート提出有
	8 (2h)	講義「高齢者を取り巻く社会的動向」	提示した課題について調べる。	社会的動向を知り、自己の考えをまとめる。 レポート提出有
	9 (2h)	講義「高齢者を支える社会資源①」	社会保障制度について学習する。	社会保障制度の変遷や内容について復習する。
	10 (2h)	小テスト有 ※前回の講義内容 講義「高齢者を支える社会資源②」	介護保険制度について学習する。	介護保険制度・サービスについて復習する。
	11 (2h)	講義「高齢者に対する権利擁護」	高齢者を差別していると感じる社会の状況について考える。	自分たちができる高齢者に対する権利擁護について考える。 レポート提出有
	12 (2h)	講義「ICF（国際生活機能分類）と老年看護」	提示した課題の事例患者について、自分ならどう関わるか考える。	高齢者にとってのよい環境について考える。 レポート提出有

	13 (2h)	演習 (発表)「高齢者のライフストーリー鑑賞会」	ライフストーリーのプレゼンテーションの準備をする。	鑑賞会を終えての学びをまとめる。 レポート提出有
	14 (2h)	講義「終末期を迎える高齢者とその家族に対する看護」	提示された事例患者の家族の心情について考察する。	人生の最終段階にある高齢者とその家族にどう関わるか、自己の考えを明確にする。 レポート提出有
	15 (2h)	講義「高齢者と災害」 終了試験	災害における高齢者の脆弱性と必要な支援について考察する。	全講義の過程を俯瞰し、目標の達成状況について自己評価する。 レポート提出有
必携文献	1) 中島紀恵子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院，2018. 2) 本田美和子、イヴ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ著：ユマニチュード入門，医学書院，2014.			
参考文献	1) 厚生統計協会編：厚生指標 国民衛生の動向			
成績評価方法	課題レポート：30%、終了試験（筆記試験）：60%、出席と学習への取り組みと態度：10% 6割以上を合格とする。			
備考	体験学習や課題学習を通して、また加齢の経過の中にあるご自身のこととして、老年期にある人を理解しましょう。			

授業科目の区分	専門分野《老年看護学》	
授業科目	老年看護援助論Ⅰ（高齢者の理解と生活支援）	
開講年次・学期	2年次・前期	
単位（時間）	1（30）	
担当講師	① 《実習調整者》看護師としての実務経験あり ② 《所属：倉敷中央病院 摂食・嚥下障害看護 認定看護師》 ③ 《所属：倉敷中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師》 ④ 《所属：倉敷中央天寿会 ケアハウスつるがた施設長》	
科目のねらい	座る・立つという基本動作を基盤とする食事・排泄・清潔といった生活行動と、それが繰り返し展開される生活リズム、さらに生活を円滑にすすめるために不可欠なコミュニケーションについて高齢者に特有の不具合と援助技術について学び、多様な場で生活している個性の高い高齢者に対して、必要な看護とその考え方について考える。褥瘡についてはアセスメント評価・看護援助について具体的に学ぶ。また、予防的な観点からのリスクマネジメントや在宅や在宅サービス機関での介護予防活動として看護の役割を学ぶ。	
授業計画	1. 高齢者の生活機能を整える看護展開 1) 日常生活を支える基本的活動 (1) 基本動作と環境のアセスメントと看護 (2) 転倒のアセスメントと看護 (3) 廃用症候群のアセスメントと看護	①
	2) 食事・食生活 (1) 食生活に注目する意義 (2) 高齢者に特徴的な変調 (3) 摂食・嚥下機能のアセスメントと看護 誤嚥予防・窒息、脱水、栄養低下	②
	3) 排泄 (1) 排尿障害のアセスメントと看護 (2) 排便障害のアセスメントと看護 4) 清潔 (1) 清潔の意義 (2) 高齢者に特徴的な変調 (3) 清潔のアセスメントと看護 入浴の生体への影響 5) 生活リズム (1) 高齢者と生活リズム (2) 特徴的な変調 (3) 生活リズムのアセスメントと看護 6) コミュニケーション (1) 高齢者とのコミュニケーションと関わり方 (2) 高齢者におこりやすいコミュニケーションの障害	①
	2. 高齢者のリスクマネジメント 1) 高齢者と医療事故	
	1. 褥瘡患者の看護 1) 褥瘡の予防とケアの動向 2) 褥瘡ケアの実際 3) 褥瘡発生のメカニズム 4) 褥瘡後発部位と褥瘡発生リスクのある人々 5) 褥瘡のリスクアセスメント 6) 栄養状態の改善 7) スキンケア 8) 褥瘡の重症度分類 9) カテゴリー/ステージ別創傷管理	③
	1. 介護予防と看護 1) 介護予防の意義とヘルスプロモーション 2) 地域で展開される介護予防活動と看護師の役割	④

必携文献	1) 中島紀恵子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院，2018. (①②③④) 2) 任和子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術第2版，医学書院，2022. (①②) 3) 渡辺晋一他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕皮膚，医学書院，2020. (③)
参考文献	1) 任和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2021. 2) 本田美和子、イヴ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ著：ユマニチュード入門，医学書院，2014.
成績評価方法	課題への取り組み・提出状況（30%）、終了試験（70%）を行う。6割以上を合格とする。
備考	老年看護概論での学びを確認しながら、発展的に高齢者に対する看護について学べることを期待する。

授業科目の区分	専門分野《老年看護学》			
授業科目	老年看護実践演習(高齢者の看護展開)			
開講年次・学期	2年次・後期			
単位(時間)	1(15)			
担当講師	《実習調整者》看護師としての実務経験あり			
科目のねらい	高齢者がどの場においても、どのような状態であっても、その人がその人らしく、その人の望む安心で安全な生活を送ることができるよう支援するための看護とその考え方について学び、対象にとってよりよいで根拠のある看護を見出す力をつけてほしい。高齢者が今まで歩んできた人生の延長線上での豊かな人生を送ることができるよう対象に積極的関心を持ち、全体としての対象を理解するために、高齢者になりきり、初々しい看護学生が関わる中でどのような感情を抱きながら、どう対応・行動する高齢者であるのかを、体験を通して知ってほしい。高齢者だからといってできないことばかりではなく、目に見えるものだけではない「もてる力」を見つけ、「もてる力」を発揮することができる支援について考えられるようになってほしい。また、健康教育の必要性や効果的に行う方法について、体験を通して考えられるようになってほしい。そして、老年看護を实践するうえで大切なことを明確に持ち、実習につなげてほしい。			
到達目標	1. 全体としてのその人について理解できるよう積極的に演習に臨み、各高齢者の望む生活とそれを叶えるために必要な看護について考えている。 2. 高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するために必要となる健康教育について考え実践し、高齢者の健康と生活を支える看護について理解している。 3. 本講義を通して学んだ「老年看護を实践する上で大切なこと」を明確にし、自分の言葉で表現している。			
授業計画	回	方法・内容	事前学習	事後学習
	1(2h) 2(2h) 3(2h) 4(2h) 5(2h) 6(2h) 7(2h) 8(1h)	1. 老年看護の特徴 2. 対象高齢患者の紹介 3. 高齢者に対する看護の实践演習 1) 健康状態に応じた看護について考え、实践する。 ・セルフマネジメント ・健康危機状況 ・セルフケア再獲得 2) ナラティブ・カンファレンス実施 3) 健康教育について考え、实践する。	事例患者に対する看護を实践するための学習及び計画	看護实践演習後の振り返り
必携文献	1) 中島紀恵子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院，2018. 2) 本田美和子、イヴ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ著：ユマニチュード入門，医学書院，2014.			
参考文献	各自が取り組む学習で、必要となる文献を検索・検討し活用しましょう。			
成績評価方法	出席状況・課題レポートにより評価し、6割以上を合格とする。			
備考	A4サイズのノートを準備してください。			